

岐阜県経済の現状



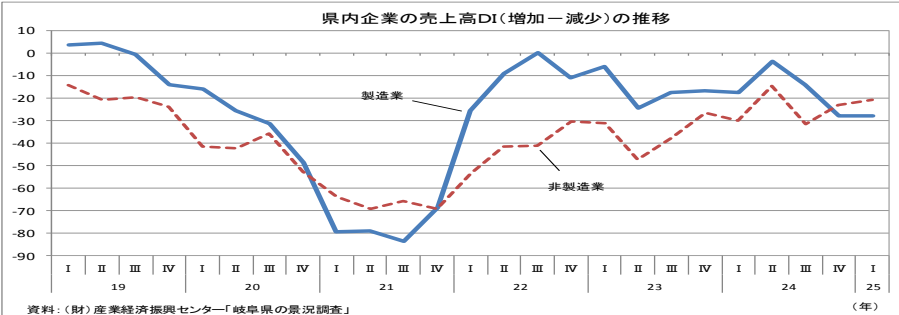
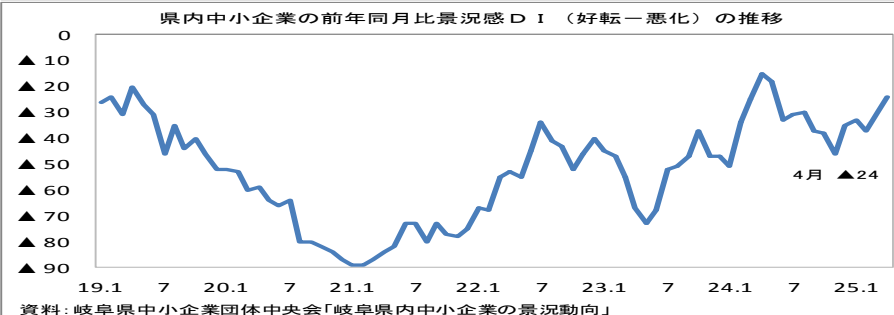
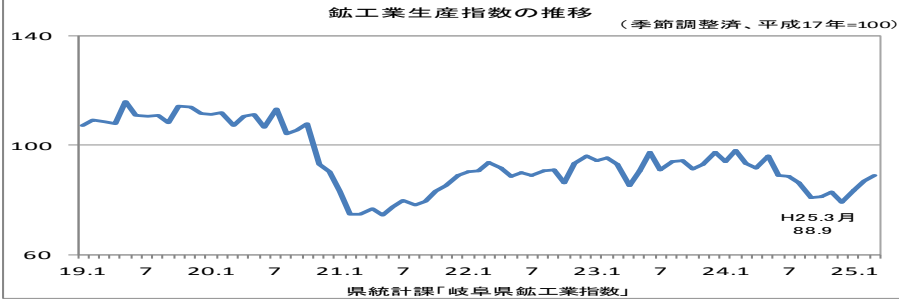
平成25年5月分
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは5月28日～30日を中心に実施し、6月7日に作成。

景気動向・製造業

○3月の景気動向指数(CI、一致指数)は104.4と前月から0.8ポイント上昇。県内中小企業の4月の景況感は、6ポイントの上昇。

○3月の鉱工業生産指数は、2.4%増の88.9となった。製造業及び非製造業の売り上げは横ばい傾向。



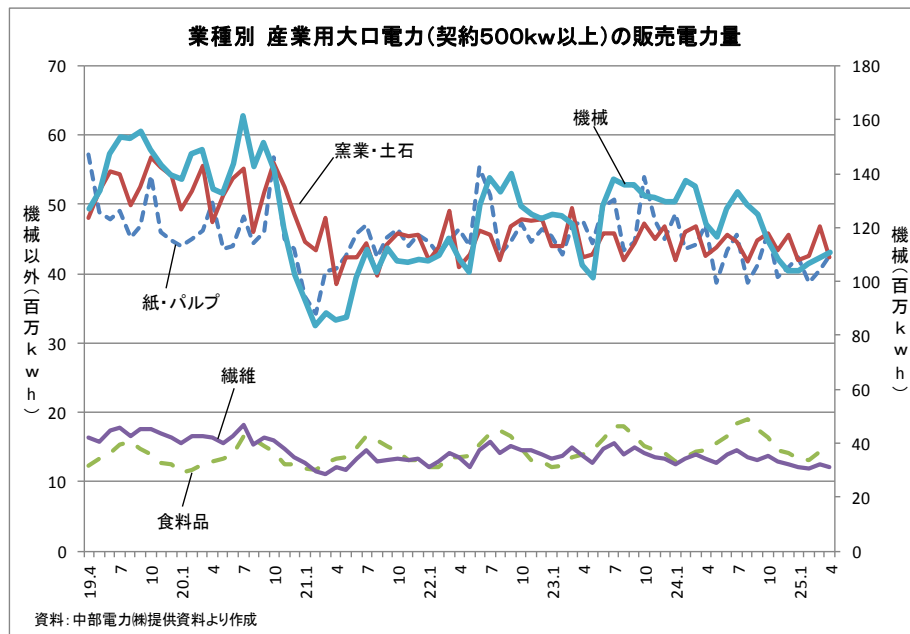
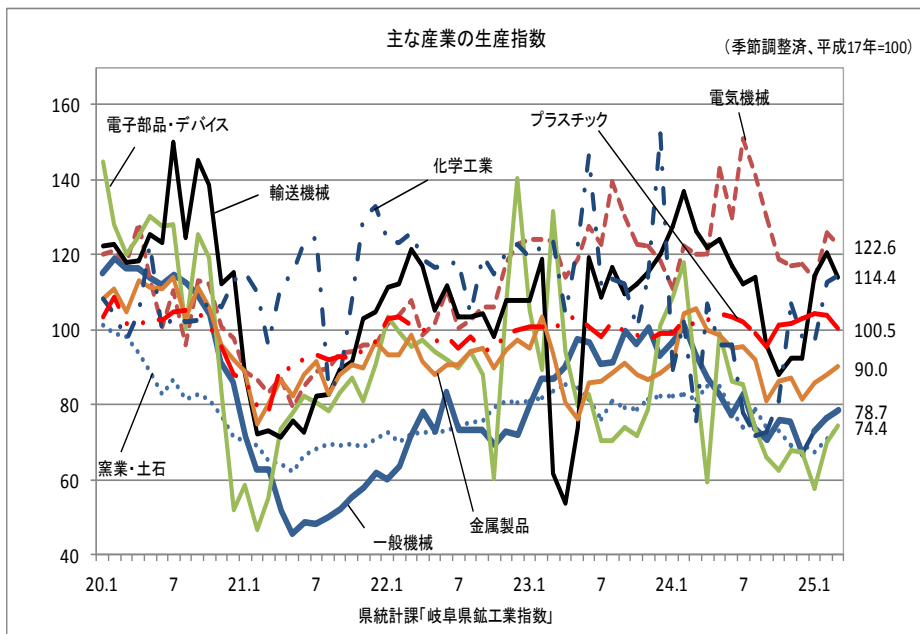
現場の動き

- ◆軽自動車に関しては順調な生産(5月)が続いている。6月以降、更に夏以降に新機種が出て生産増の期待が膨らんでいる。
- ◆先月同様、2月3月から順調に伸びてきており、海外で車が売れていることもあり工場生産能力の100%に近い状態である。
- ◆受注量は少し伸びつつある。上がり下がりはあるが、昨年11月ごろから緩やかに回復傾向にある感じである。
- ◆5月は4月と横ばいである。昨年に出した予想高よりよく、高水準を維持している。
- ◆トヨタ全体の生産量が伸びており、引き続き好調な状況が続いている。(以上、輸送用機械)
- ◆4~5月納期の海外企業からの受注・生産が集中したため、受注量、売上額ともに前年対比で大幅に増加した。
- ◆引き合いの話は増加傾向にあるが、4月は60%程度から5月は70%程度の稼働率に上昇。下期は期待されるため、徐々にではあるが、稼働率は上げていく方向である。(以上、生産用機械)
- ◆全体として、引き合いが増えてきたこともあり、景況としては明るくなってきた。(金属製品)
- ◆引き続き好調な状況で、6月も同程度の出荷量を見込んでいる。(プラスチック)

製造業-2(業種別)

○3月の生産指数は、輸送機械、電気機械、プラスチックで低下したものの、化学工業、金属製品などの産業で上昇した。

○4月の工場向け販売電力量は、食料品で前年を上回ったが、構成比の大きな機械、窯業・土石、紙・パルプ等で減少した。



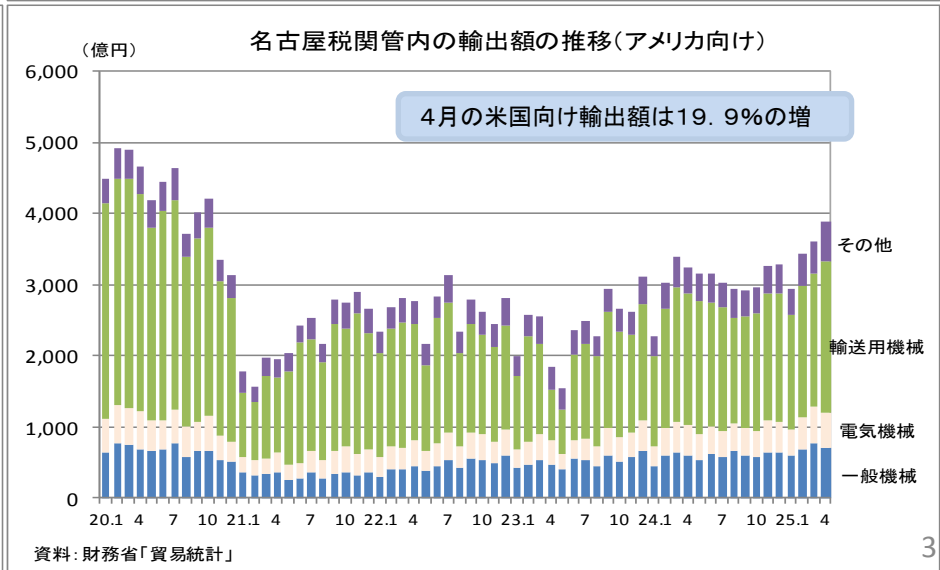
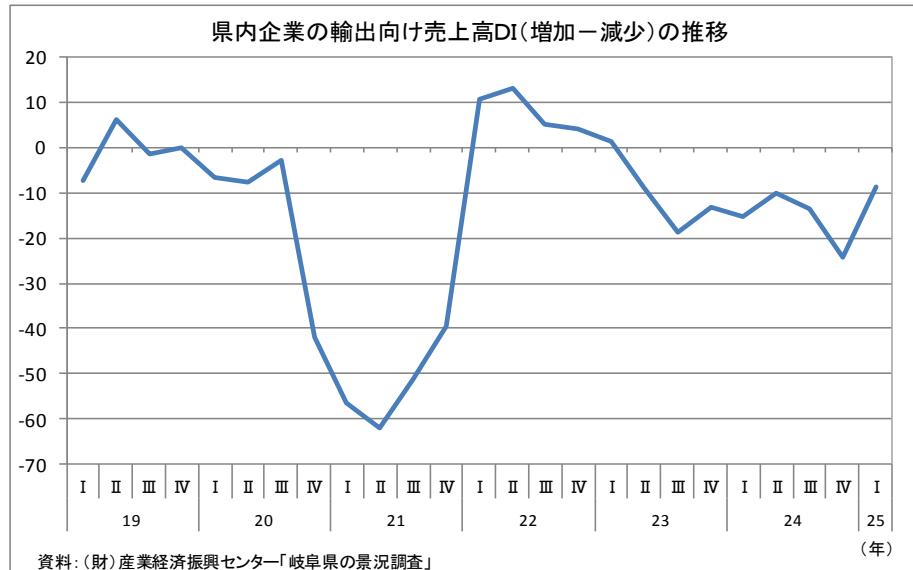
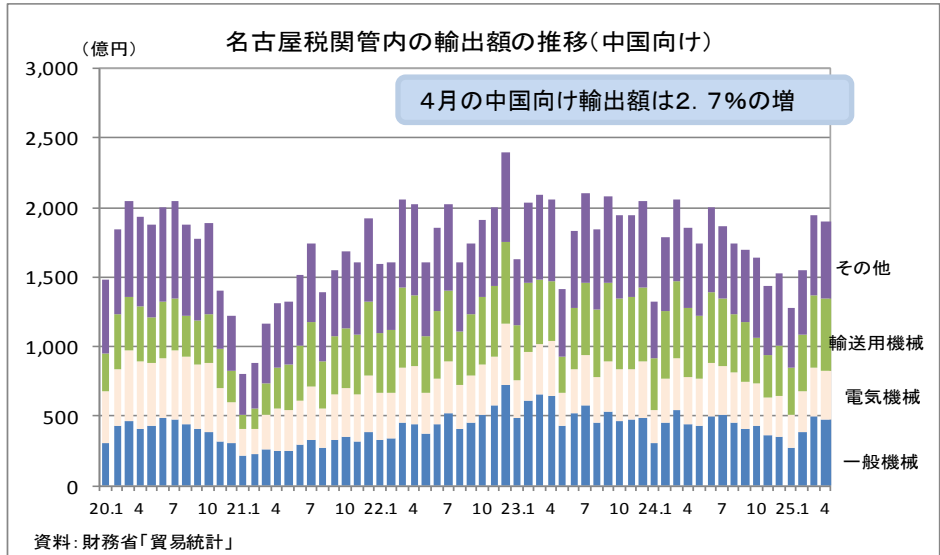
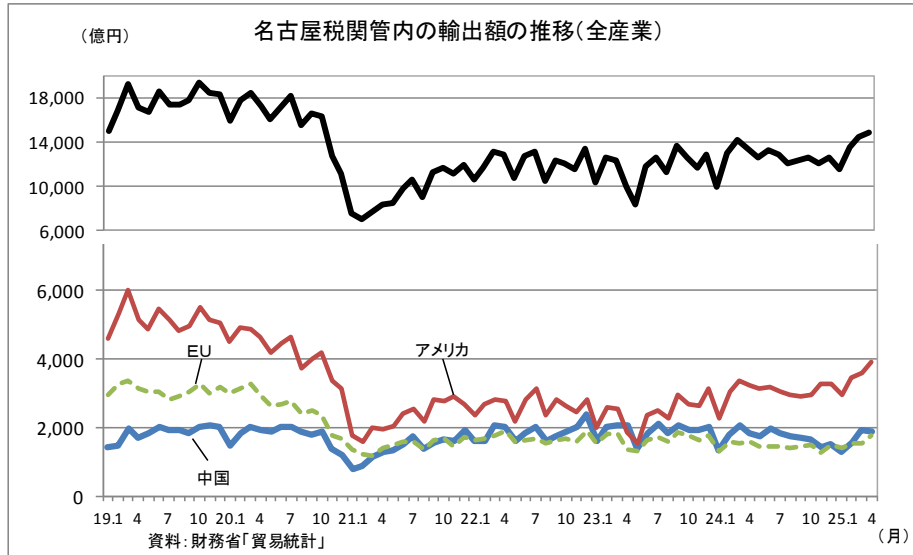
現場の動き

- ◆いまは来年の春夏商品について各メーカーが検討している段階だが、このまま円安が続くのか、それとも状況が改善するのか読めないため、デザインや材料、価格について決定するのが困難なようだ。(アパレル)
- ◆夏には陶磁器は売れない。今後の売上は厳しいだろう。ブライダルギフトの需要回復は見込めないが、以前ほどカタログギフトが主流をしめなくなったと聞いた。また陶磁器に需要が戻ればいいが、そんな単純にはいかないだろう。(陶磁器)
- ◆景気が良くなったといわれているが、実際の発注には繋がってはいない。ただ、景気が良くなるのではないかという強い期待感はある。(刃物)
- ◆景気は非常にわずかではあるが回復感を感じている。(食品製造)
- ◆景気は例年のこの時期に比べてよくない。(紙)
- ◆4、5月は、好調であった1～3月に比べると少し売上げが落ちているが、昨年同時期と比べると伸びている。(木工)

輸出

○4月の輸出額(名古屋税関管内)は、14,854億円で前年同月比10.6%増。

○中国向け輸出は主力の産業が全て増加したことで前年同月比2.7%増と10カ月ぶりに増加に転じた。アメリカ向け輸出は主力の産業が全て増加したことで19.9%増となり、直近20カ月中19カ月で前年を上回っている。

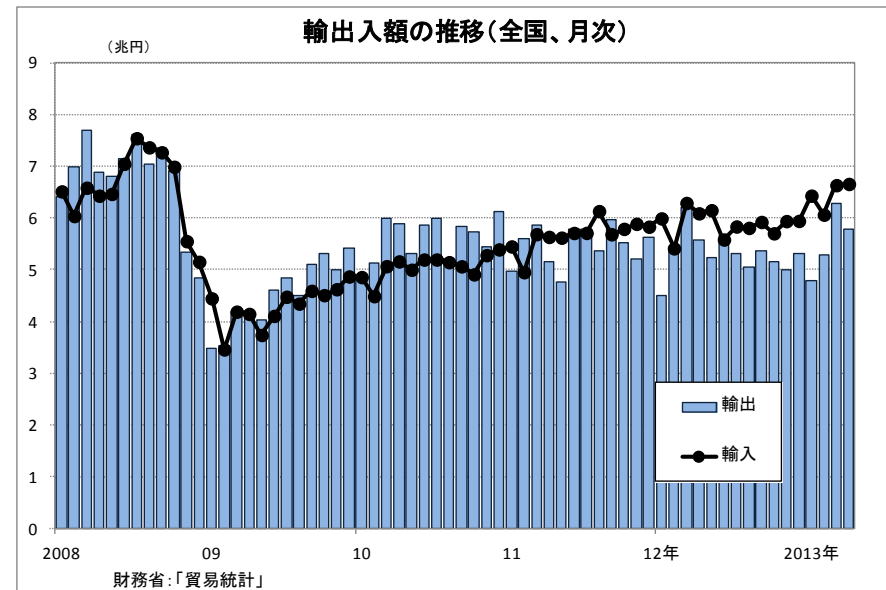


海外情勢の影響(直近の円安の動きについて)

- ◆円安の影響で輸入原料の大半が高騰し、製造コストを大きく引き上げているが、売価への転嫁が困難であるため利益を圧迫している。(食料品製造)
- ◆円安により自動車の輸出が好調で、販売量に反映している。
- ◆北米向けの好調は維持されている。中国向けの売上げは回復していると思われる。(以上、輸送用機械)
- ◆円安傾向は燃料・原材料が高騰してきたが、ここに来て落ち着いてきた。(非鉄金属)
- ◆円安の定着に伴い海外からの素材調達から国内調達に切り替えを検討される顧客が出始めた。(生産用機械)
- ◆円安により原材料費が急激に上がっており、価格に転嫁できず収益を圧迫している状況である。(金属製品)
- ◆原価に占める燃料費と原材料費が上昇しているが、売価への転嫁は難しい。(プラスチック)
- ◆円安の影響で仕入れ価格が上がり、駅前の間屋街は大変な状況にある。(アパレル)
- ◆昨年は円高で厳しかったが、今年に入り円安傾向が続いており、輸出関係は好調。一方で輸入商品は厳しい。輸入価格の増加分をすぐに販売価格に転嫁はできない。(刃物)
- ◆円安の影響でパルプの原料費は上がっているし、原油価格の高騰も大いに影響を受けている。商品価格を2%程度あげることも考えてはいるが、顧客がデフレ慣れしているので、値上げに踏み切れず、転嫁できていない。(紙)

アベノミクスの効果・影響

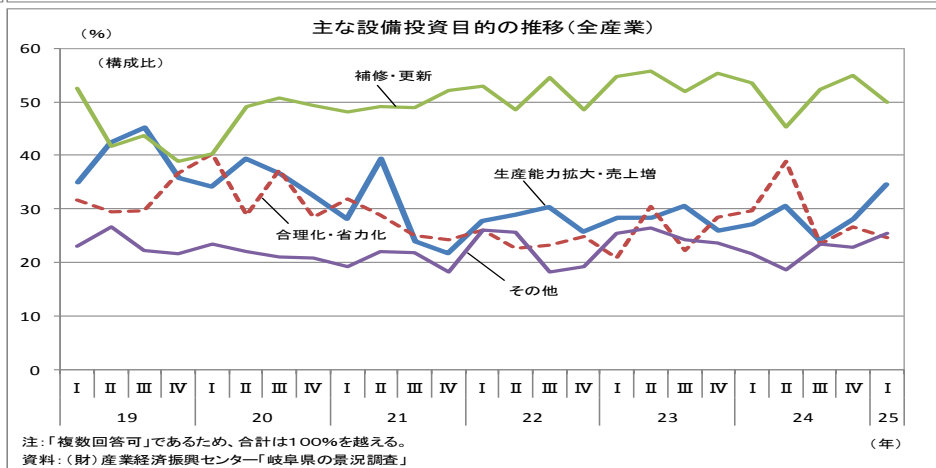
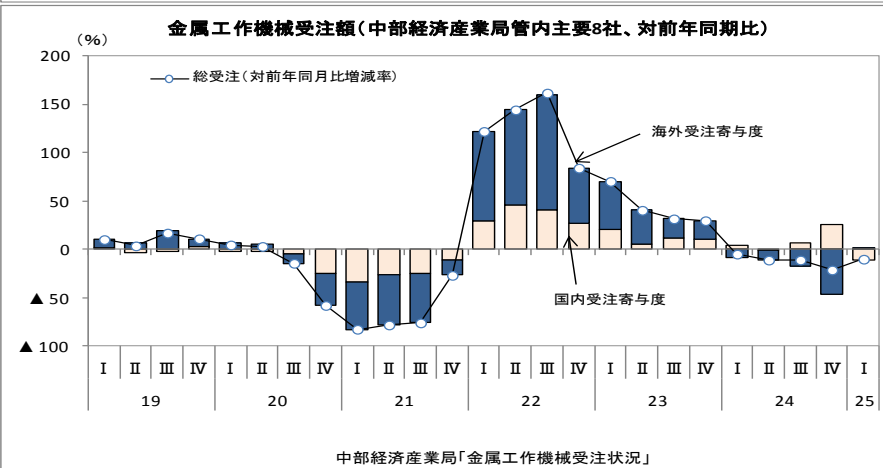
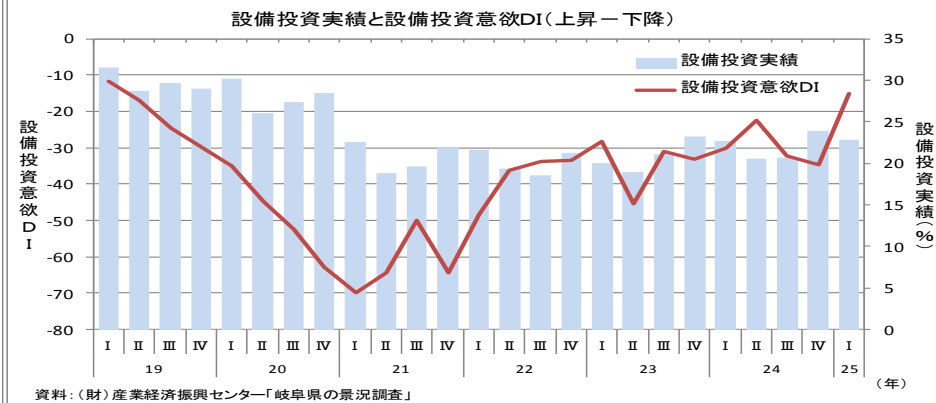
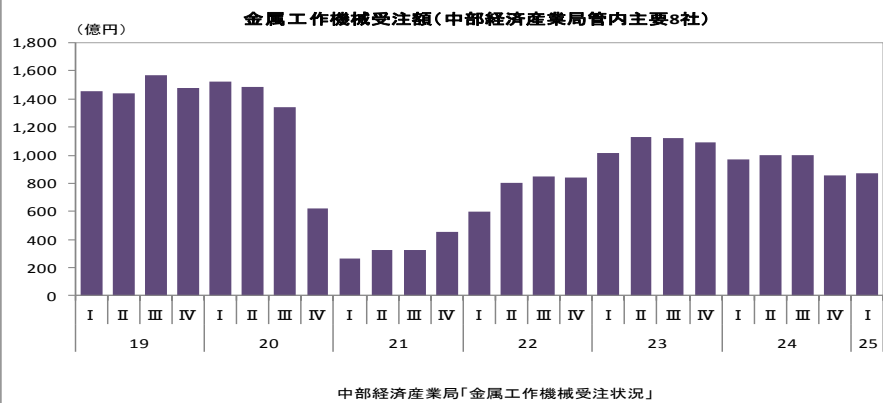
- ◆アベノミクス効果が実感できない。逆に、円安で輸入原料の価格が上昇するなど、悪い面で影響がある。(食品製造)
- ◆アベノミクスの効果が現れているとはまだ言えないが、前年の落ち込みに対して期待された数字が出ている。(輸送用機械)
- ◆アベノミクスは大企業向けと考えられ、当社に好影響を及ぼすには時間を要すると思われる。(電気機械)
- ◆先月の売上から、ほぼ横ばい状態。アベノミクス効果は未だ感じられないが、今後、売上の増加が見込まれる。(プラスチック)
- ◆アベノミクスによる景気向上の実感はないが、売上げはそこそこあるので、少しずつ上向しているのかもしれない。(木工)



設備投資

- 生産用機械の受注額は、国内受注が減少したことで、5期連続のマイナスとなった。
- 設備投資意欲DIは、改善傾向。

- 「補修・更新」といったやむを得ない理由が減少し、「生産能力拡大・売上増」といった前向きな設備投資が増加した。



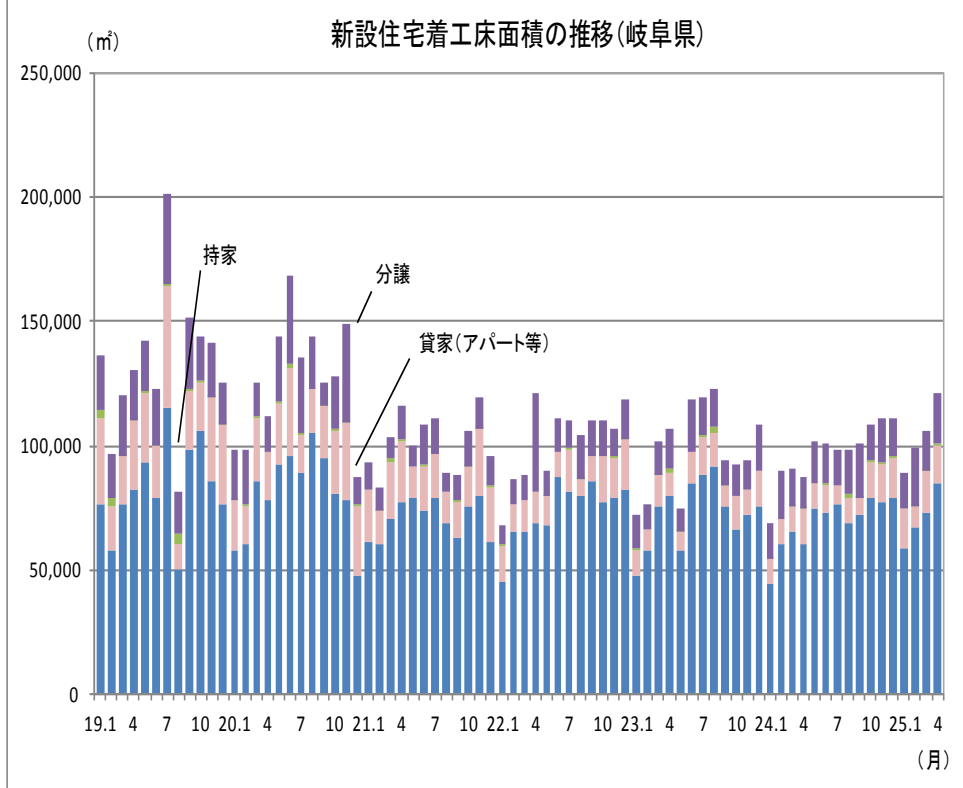
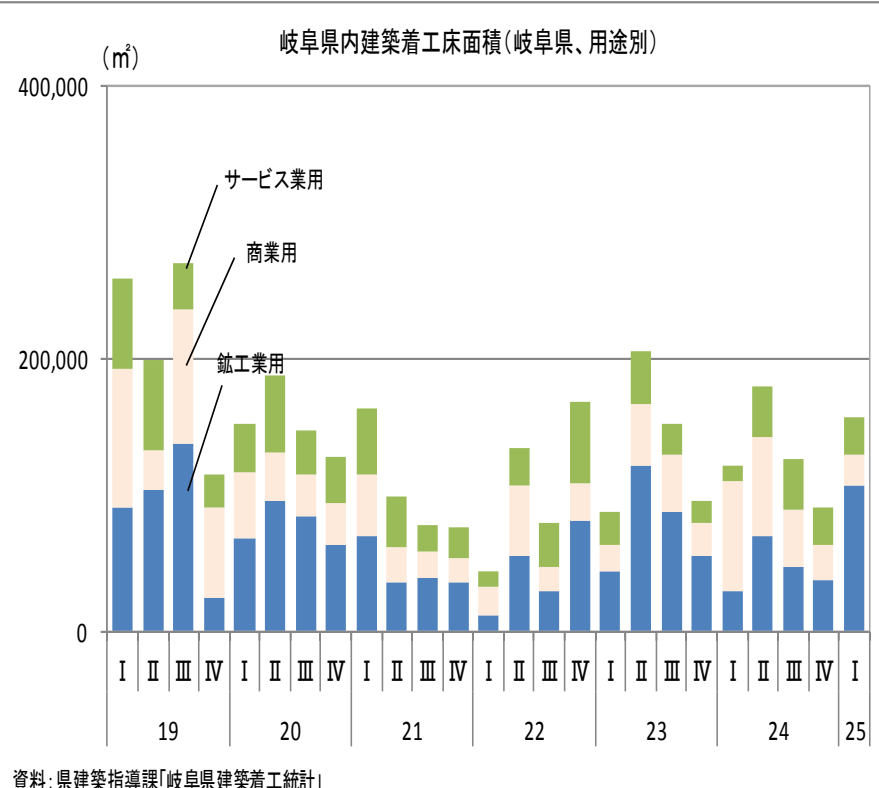
現場の動き

- ◆自動車部品関連は年度末特需の反動により著しく減少した。また、中国向け建設機械部品は依然として市況の回復が見られず低迷している。
- ◆昨年と比べ、内外ともに印刷機の受注が増えて来ている。現在は、3か月先までの受注が確保できている。(以上、生産用機械)

住宅・建築投資

○25年1-3月期の建築着工は、商業用が減少したものの、鉱工業用及びサービス業用が増加し、前年同期比29.5%増となった。

○4月の住宅着工は、持家など全ての区分で増加したことにより、全体では前年同月比38.7%の増加となった。

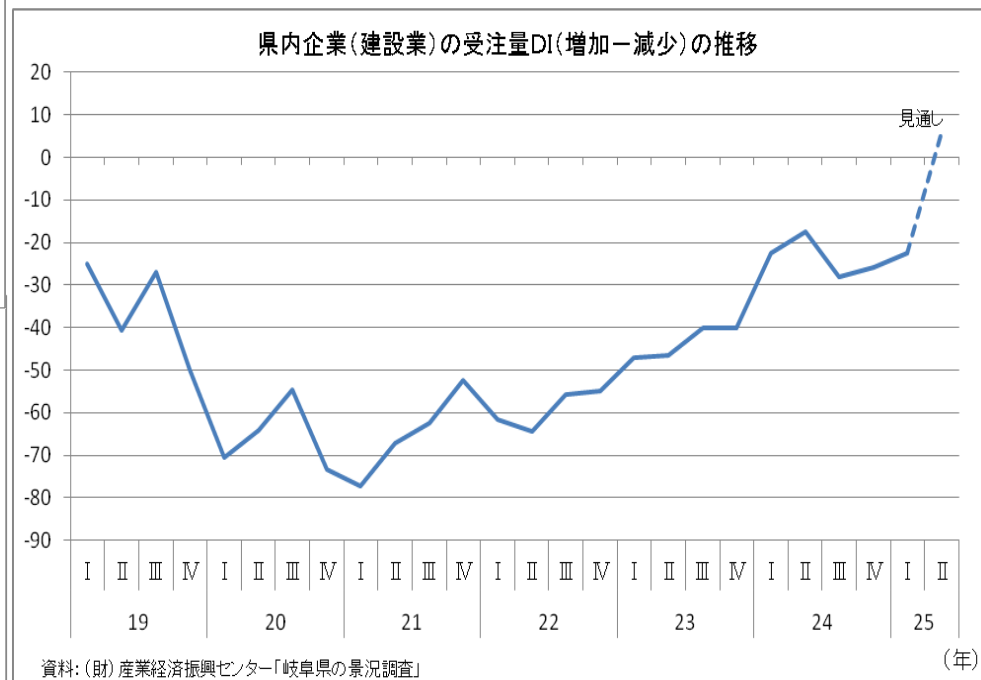
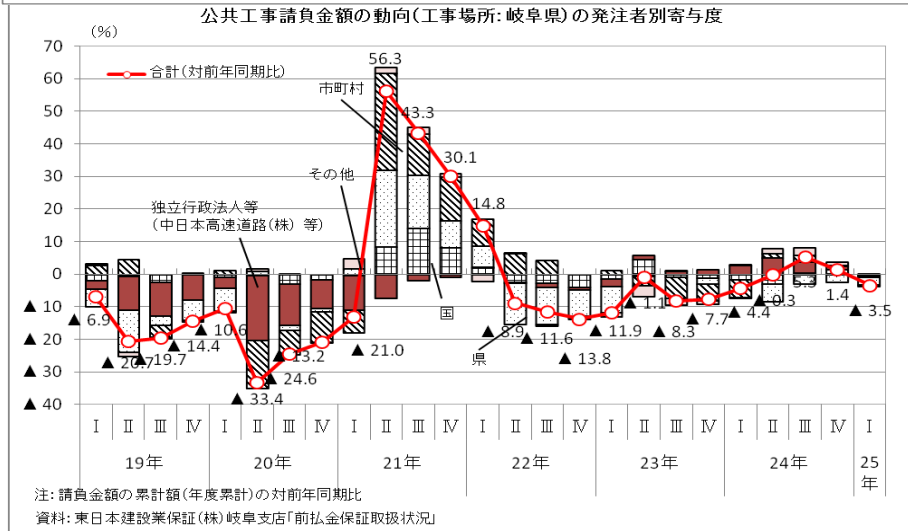
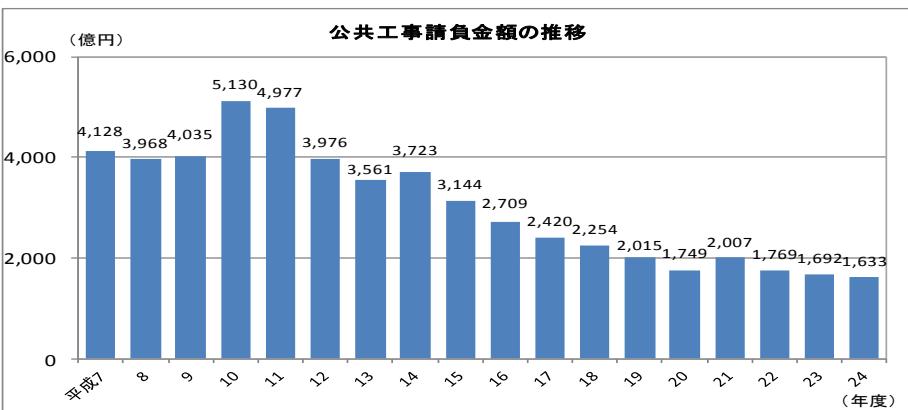


現場の動き

- ◆円安・株高による恩恵はあまり実感がない。一方で材料費、燃料費等が増加してきており、さらなるコスト削減を検討中。ただ、市況は少しずつだが動いており、期待感を持っている。
- ◆プレカットの受注の相談は増加傾向にあり、展示会などの入込も増加しているが、確実な受注増にまでは至っていない。
- ◆住宅着工戸数は伸びているが建設される住宅の小型化や、厳しい価格競争により製品価格が上がらない状況であるため厳しいと感じている。(以上、製材所)
- ◆原木の流通量については、4月と比べてやや増加傾向である。(森林組合)

公共工事

- 24年度内に県内で実施された公共工事請負金額は1,633億円で過去最低を更新。
- 25年1-3月期の公共工事請負金額は、国、市町村、独立行政法人からの発注が減少しているため、対前年同期比3.5%減と4期ぶりに前年同期の水準を下回った。



現場の動き

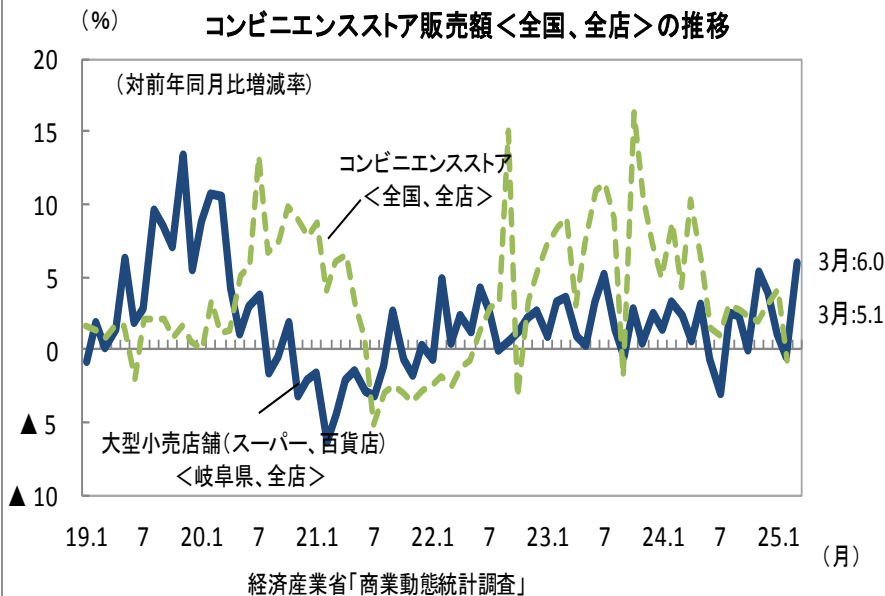
◆仕事がない建設業者は減少しているが、手持ちの仕事量はまだ少ない。一方、大型補正による公共工事が控えていることもあり、業界の雰囲気は明るい。(業界団体)

個人消費(流通・小売)

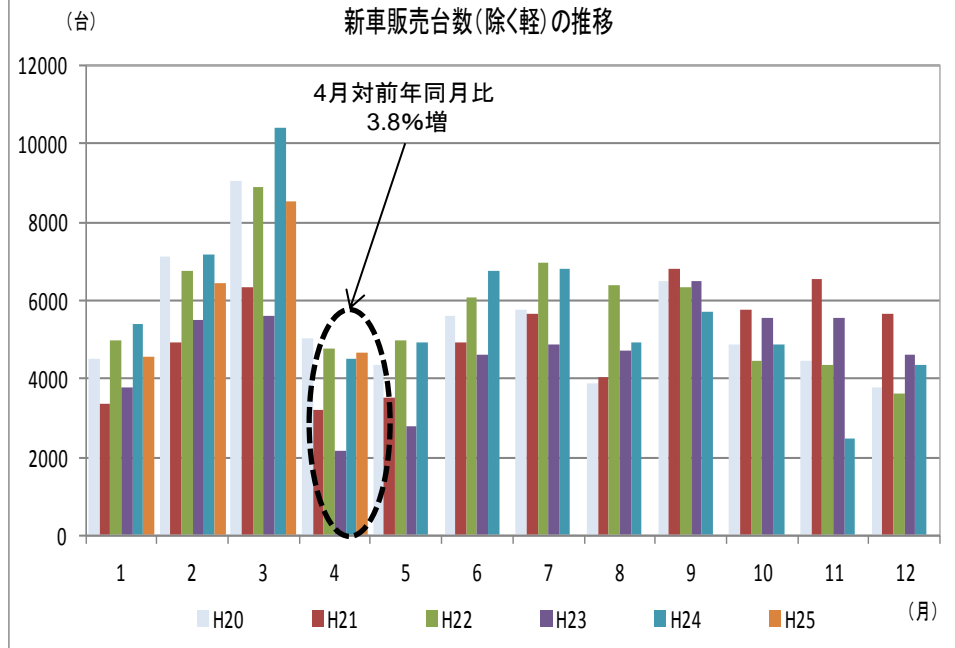
○3月の大型小売店販売額は、対前年同月比6.0%増と2カ月ぶりの増加となった。

○4月の自動車販売は前年同期比3.8%増と8カ月ぶりの増加となった。

大型小売店舗販売額<岐阜県、全店>及び
コンビニエンスストア販売額<全国、全店>の推移



新車販売台数(除く軽)の推移



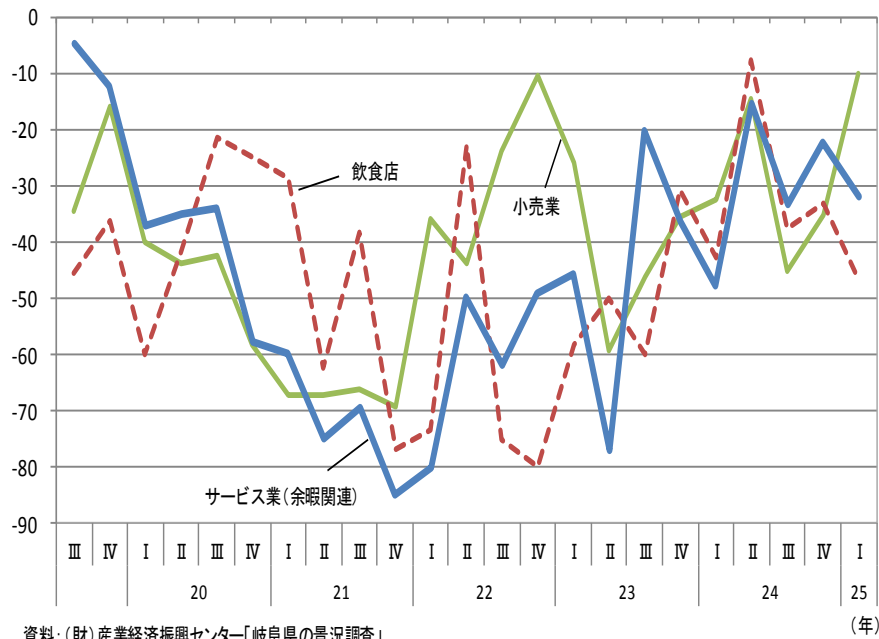
現場の動き

- ◆食料品については特に大きな動きはないが、安定して推移している。
- ◆GW期間中の売り上げも102%と良かった。GW期間中に集客対策を行ったこともあるが、地域イベントとの相乗効果もあり、大型連休中であっても来店客を確保できた。
- ◆GWは天候がよかったこともあり、入場客数が約5千名増え、売り上げも1割程度の増となった。特に衣料品の売り上げがよく、夏物が安定して売れていた。(以上、大型小売店)
- ◆GWを含め全体的に天候がよかったこともあり、アウトドア関連やサンダルが対前年比約2割増とよく売れた。クーラーボックスもよく売れた。(スポーツ用品)
- ◆今月の売り上げは、前年比でややマイナスの状況。GW期間を通じて天候がよかったため、行楽に出かける人が多かったのではないかと推察。(家電)
- ◆暖かくなってきたので、冷やしめんやペットボトルの売り上げが伸びてきた。(コンビニ)

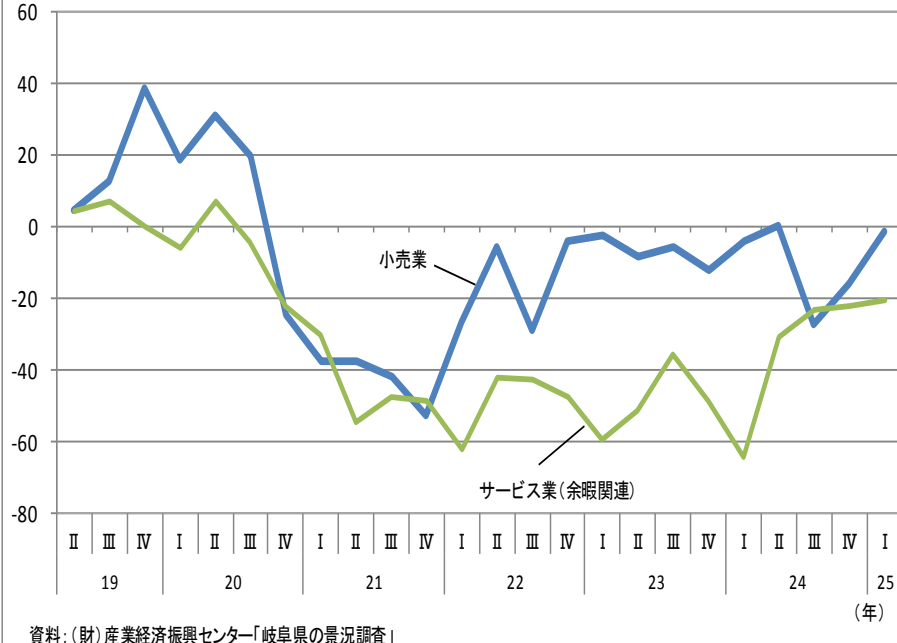
個人消費(流通・小売)－2

○平成25年第 I 四半期の小売業について、売上高、販売額ともに上昇傾向。

県内企業の売上高DI(増加－減少)の推移



県内企業の製品販売価格DI(上昇－下降)の推移



現場の動き

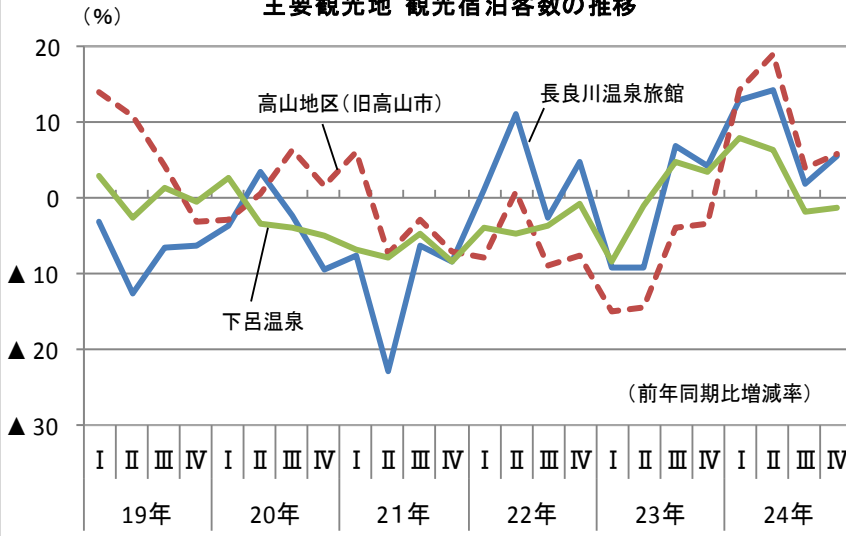
- ◆5月はお祭りが多くあり、人出は多かった。(大垣市商店街)
- ◆5月18・19日の両日、高橋尚子さんの清流マラソンに合わせて「柳ぶら楽市」を開催したが、来訪者は少なかった。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆連休中は日本人観光客で賑わい、その後は外国人観光客が多い。円安の影響で外国人が目に見えて多くなった。(高山市商店街)
- ◆GW中は観光客も多く売りが良かった。その後は22日まではよくなく、23日以後は良好。トータルすると100%。(多治見市商店街)
- ◆4月は気温が低いこともあり婦人服関係店舗が落ち込んだが、5月は好調であった。
- ◆GWは後半に実施した鉄道模型関係イベントの集客効果もあり、ランチを中心に売上増となった。(以上、アクティブG)

観光

○平成24年第Ⅳ四半期の宿泊客数は、長良川温泉が前年同期比5.7%増、高山地区(旧高山市)が5.9%増と引き続き増加したものの、下呂温泉は1.2%と引き続き減少した。

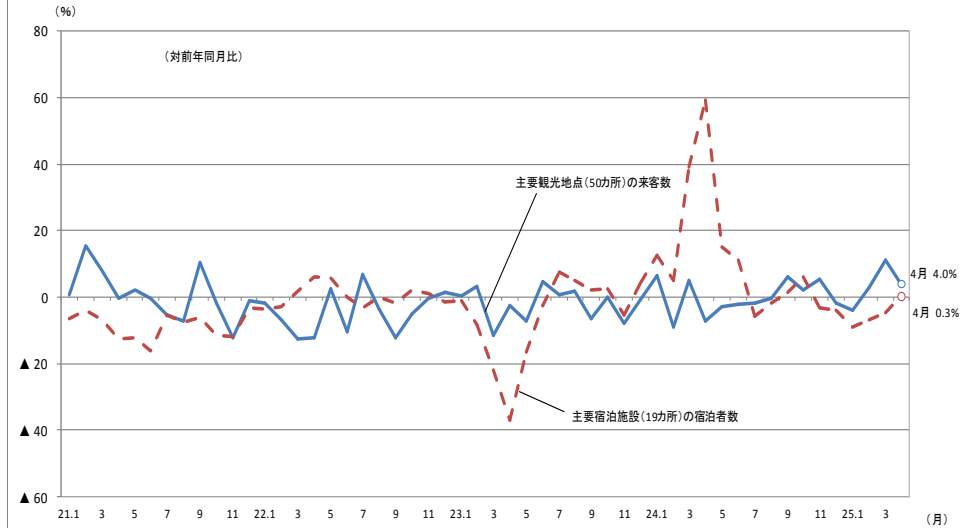
○主要観光地における4月の観光客数は、前年同月比4.0%増と3ヶ月連続で前年を上回った。また、主要宿泊施設における宿泊者数は同0.3%増と6ヶ月ぶりに前年を上回った。

主要観光地 観光宿泊客数の推移



県統計課「統計で見る最近の県経済」

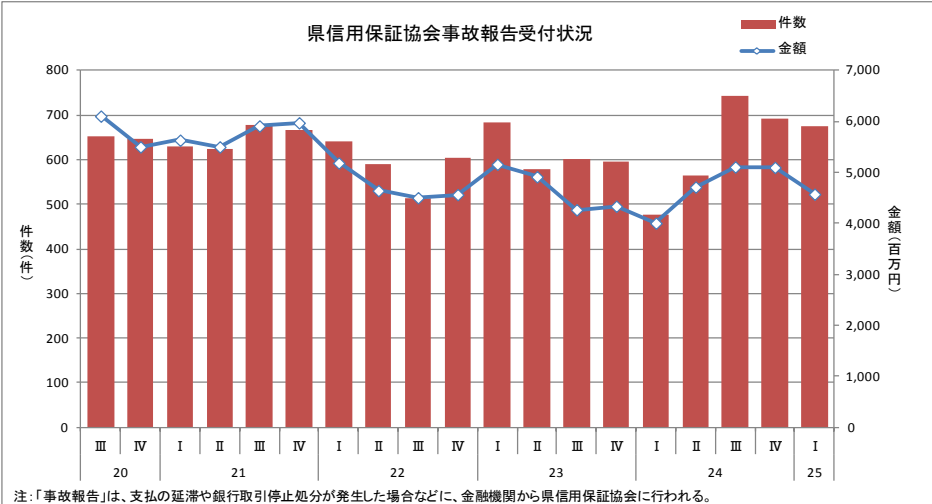
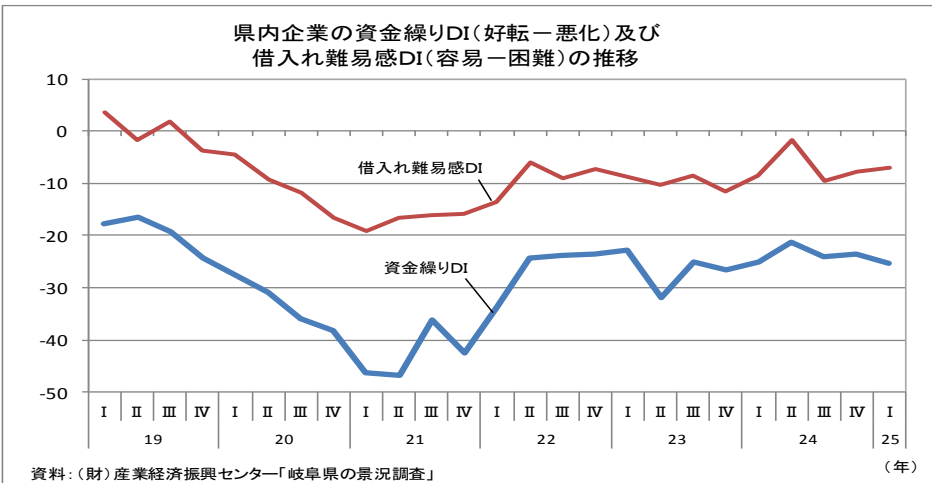
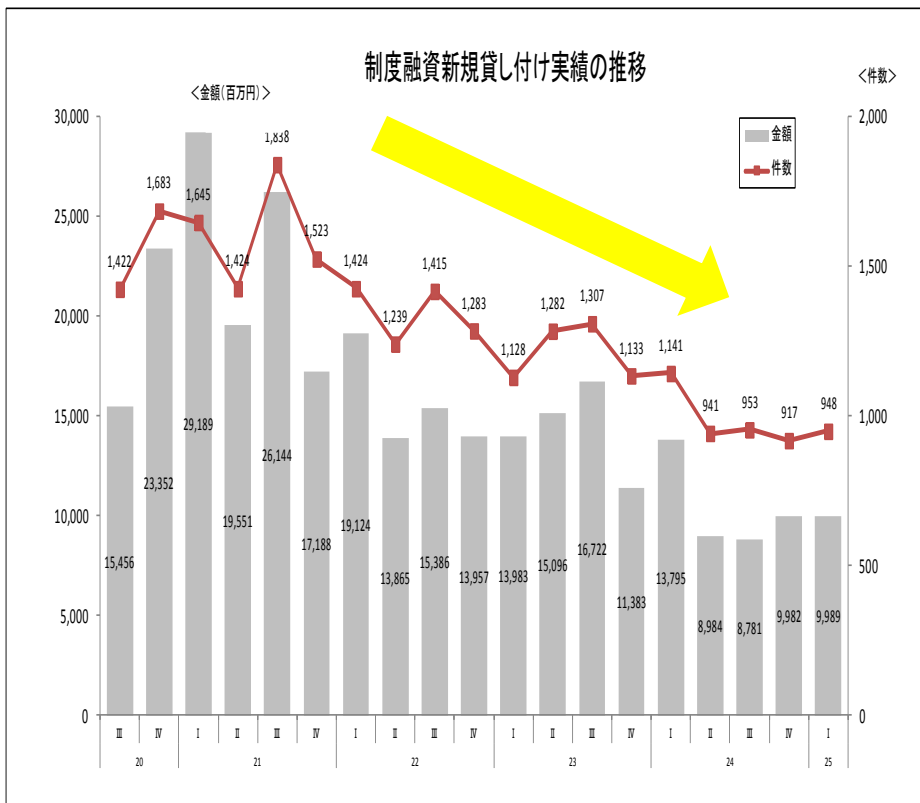
主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



資金繰り

- 新規融資実績は21年の秋口から沈静化が続いている。
- 足元の資金繰り及び借入難易度は回復基調が一服している。

<新規融資実績(月別)>

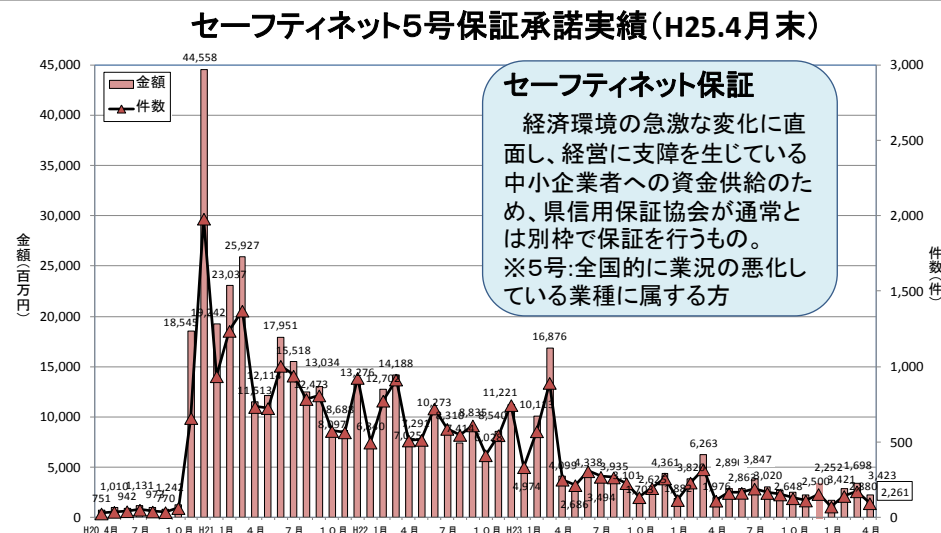
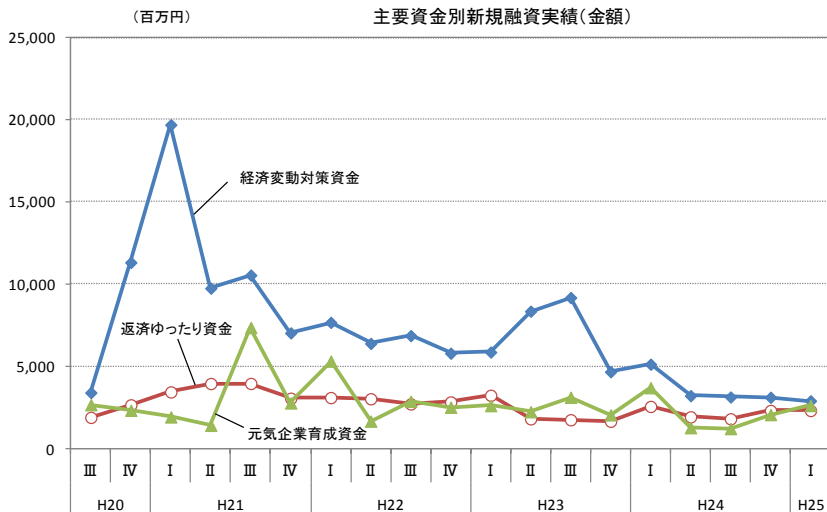


現場の動き

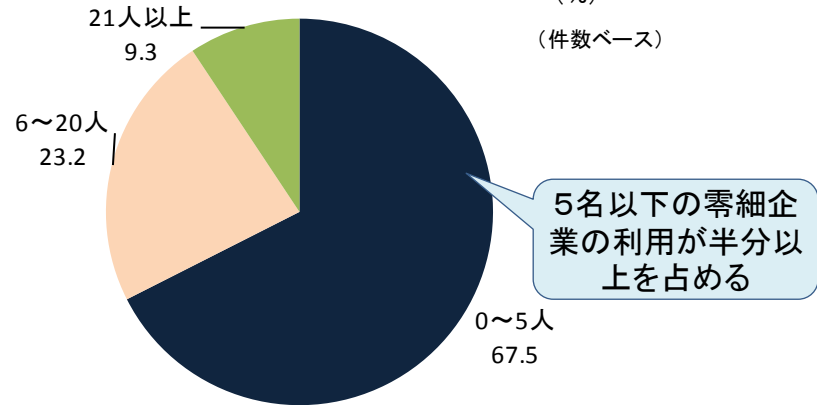
- ◆融資動向全体についてはこれまでどおりで、基本的に状況は変わっていない。
- ◆金融円滑化法終了については、条件変更も特に増減もなく、終了に伴う動きはない。
- ◆景気の上向きや株高の効果が、我々の管内の中小企業者にまで下りてきている実感はない。まだまだ時間がかかりそうである。(以上、金融機関)

資金繰り-2

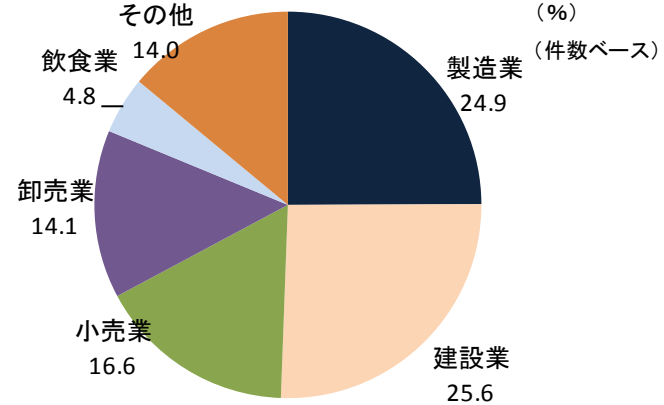
- 資金繰りを改善するための運転資金である「経済変動対策資金」の融資実績は、21年秋以降減少傾向が続いている。
- 引き続き、製造業・建設業の利用が多く、従業員5名以下の零細企業が半数以上を占める。



県制度融資 利用企業規模別割合 (H24年4—H25年3月計)



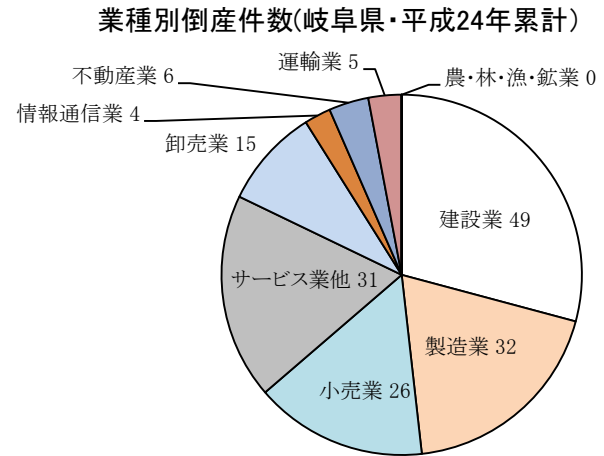
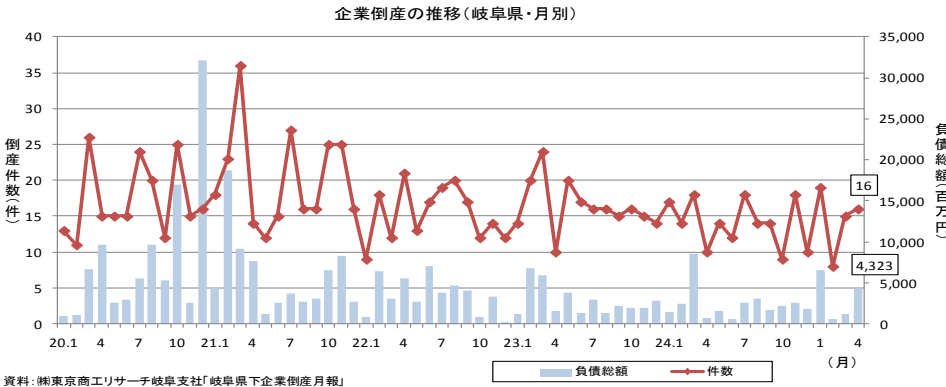
特別経済対策資金 利用企業規模別割合 (H24年4—H25年3月計)



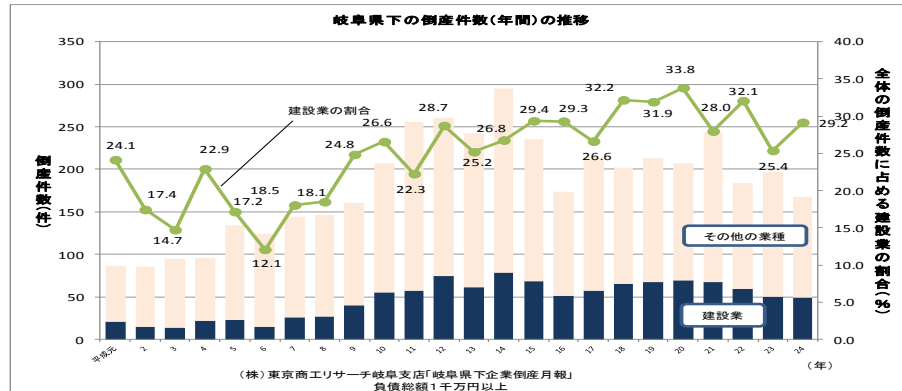
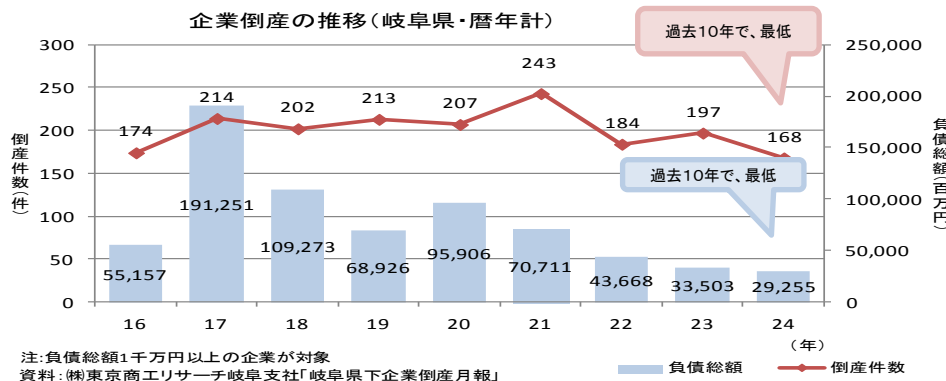
倒産

- 平成25年4月の倒産件数は前年同月から6件増加の16件となった。
- 平成24年の倒産件数は168件となり、前年から29件減少。負債総額は平成10年以降最も低い水準。

- 業種別では、建設業と製造業で約5割を占めている。



東京商工リサーチ「岐阜県下企業倒産月報」
負債総額1千万円以上



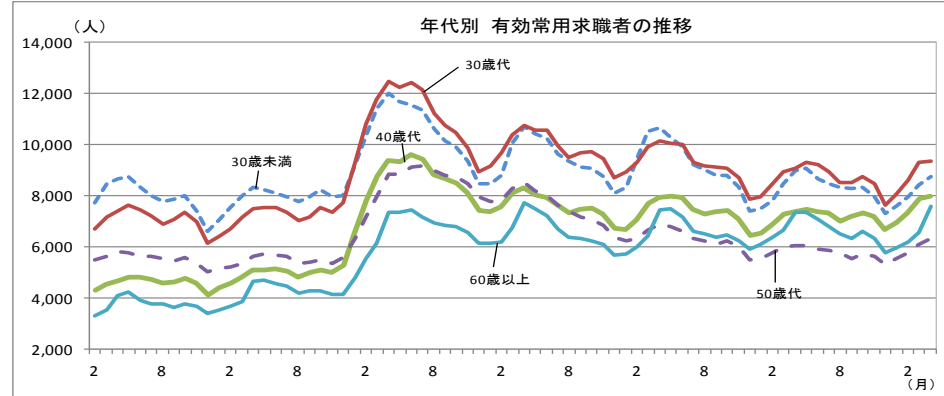
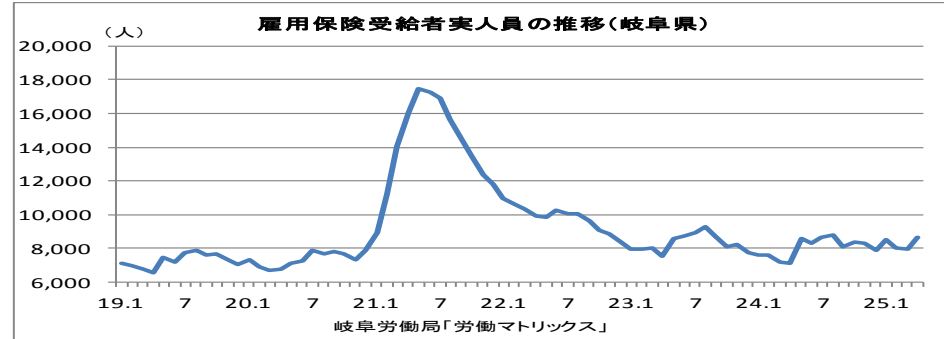
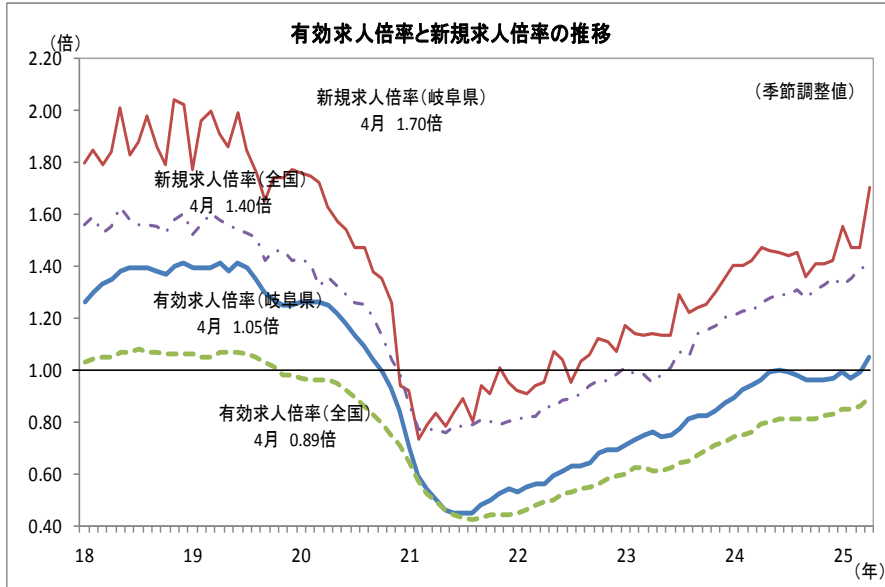
専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆4月の県内倒産件数は16件、負債総額は43億2300万円となった。負債総額10億円を超える大型倒産が2件、1億円以上の倒産が6件あったが、依然として大半は1億円未満の小口倒産が占めている。
- ◆金融円滑化法の終了後も各金融機関の柔軟な対応が継続しているが、中小零細企業の中には政府の景気対策への期待感ばかりが先行し、実態が伴っておらずタイムラグが見られる部分があり、再び倒産が増勢となる可能性は否定出来ない。

雇用

○4月の有効求人倍率は1.05倍と10カ月ぶりに1倍を上回った。また、新規求人倍率は1.70倍と前月より0.23ポイント上昇。

○4月の雇用保険受給者人員は8,638人と前年同月と比べて21.9%増加した。

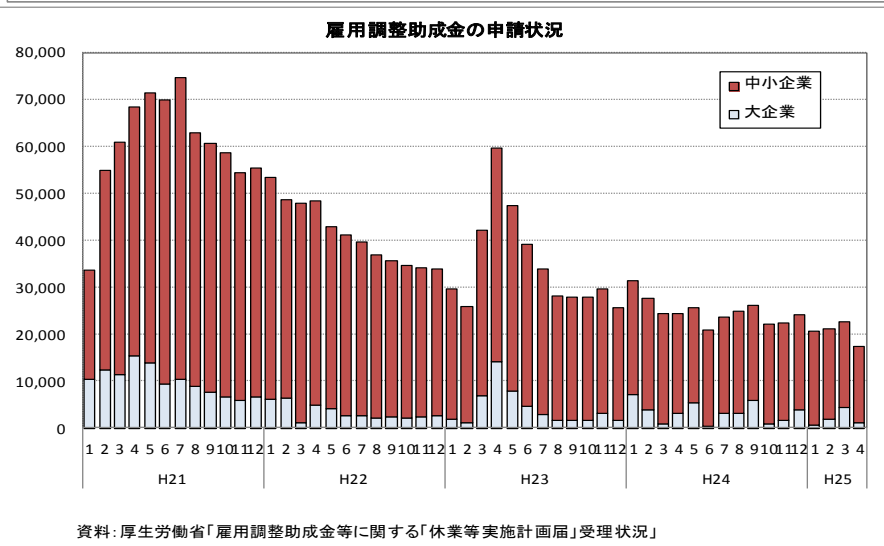
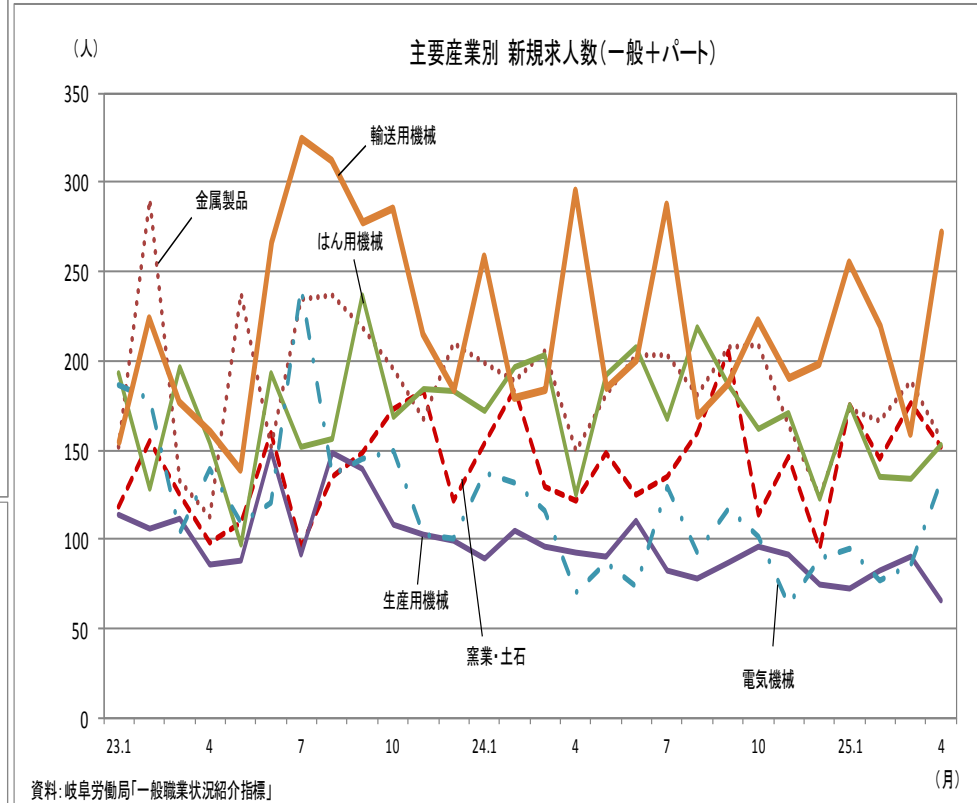
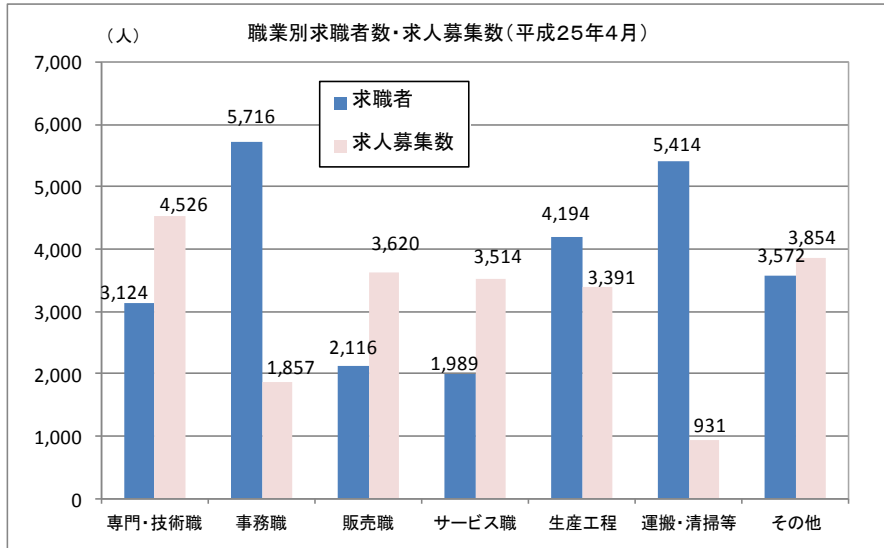


現場の動き

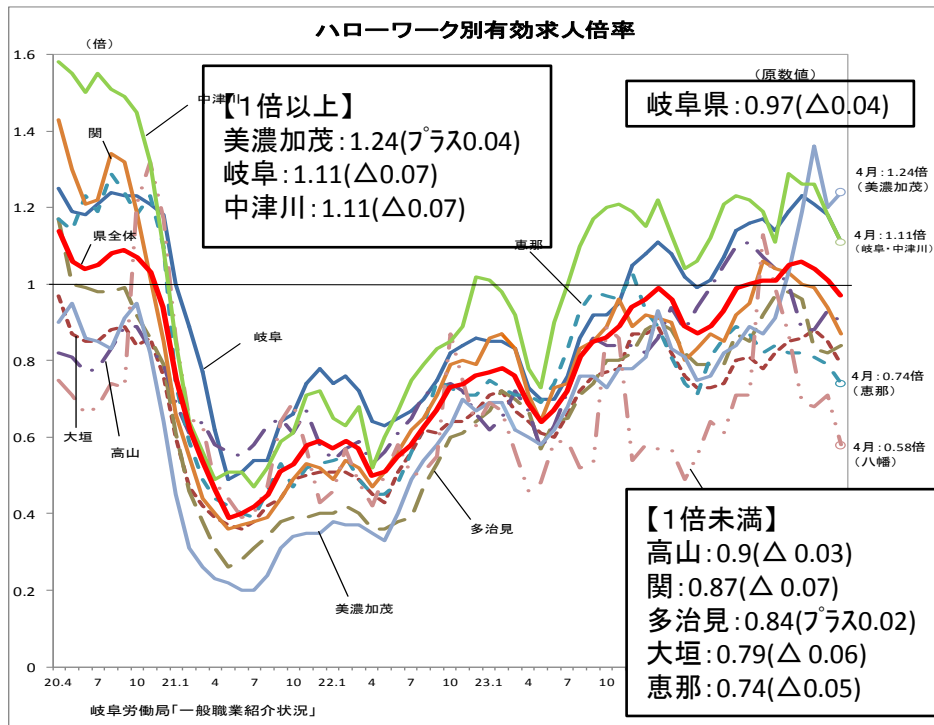
- ◆5月はパートを4名採用したが、未だ人手不足である。現在も引き続き5名程度募集しており、応募は安定的にあるものの当社が期待する若者からの応募が少ない。(食料品製造)
- ◆ハローワークからの要請もあり、ソニーイーエムシーエス美濃加茂の退職者3名、その他2名を、正社員として中途採用した。(輸送用機械)
- ◆機械設計・開発の人材を希望するが、求人数が少ない。(生産用機械)
- ◆正規職員、非正規職員とも数名の雇用を予定していたが、派遣社員5名を雇用した。
- ◆中途採用の募集を行っているが、なかなか即戦力となる人材が集まらない。(以上、金属製品)
- ◆受注増に対応するため、シルバー人材センターから派遣されていた方をパートとして5名採用した。(プラスチック)
- ◆無期雇用というよりも有期雇用の枠が広がり、パートやアルバイトへ働き方も増えている傾向。証券会社などの金融業界は忙しく好調。(人材派遣会社)

雇 用(職業別)

- 「事務職」や「運搬・清掃等職」では求職者数と求人募集数のギャップが大きい。
- 新規求人は、窯業・土石、金属製品が減少したが、輸送用機械、はん用機械等の産業で増加した。
- 雇用調整助成金は震災直後に急増したものの、このところほぼ横ばい状態。



雇用(地域別)



<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数はよこばいだが、求職者数は減少。
- ◆雇用保険の受給者数は減少している。
- ◆雇用調整助成金の件数は横ばい。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険の受給者数も減少している。
- ◆雇用調整助成金の件数は増加。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険受給者数、雇用保険受給者数はともに横ばい。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険受給者数は増加。
- ◆雇用調整助成金の件数は減少。
- ◆来所者数も先月と同じくらいの状況。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険の受給者数、雇用調整助成金の件数も減少。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は増加しているが、求職者数は減少。
- ◆雇用保険の受給者数は減少している。
- ◆来所者数が増加している。

<ハローワーク中津川>

- ◆求人者数、求職者数はともに増加。
- ◆雇用保険の受給者数、雇用調整助成金の件数も増加。
- ◆来所者数が増加している。

【ソニーEMCS美濃加茂サイト関連】

○従業者数

平成24年10月末: 2,160人(外国人835人)

平成25年3月末: 0人

○ハローワーク窓口の状況(5月25日現在)

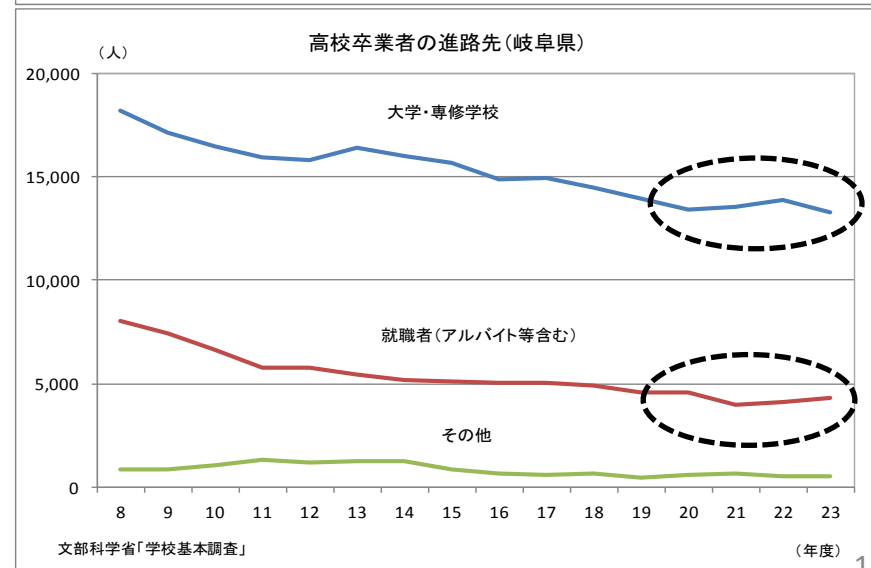
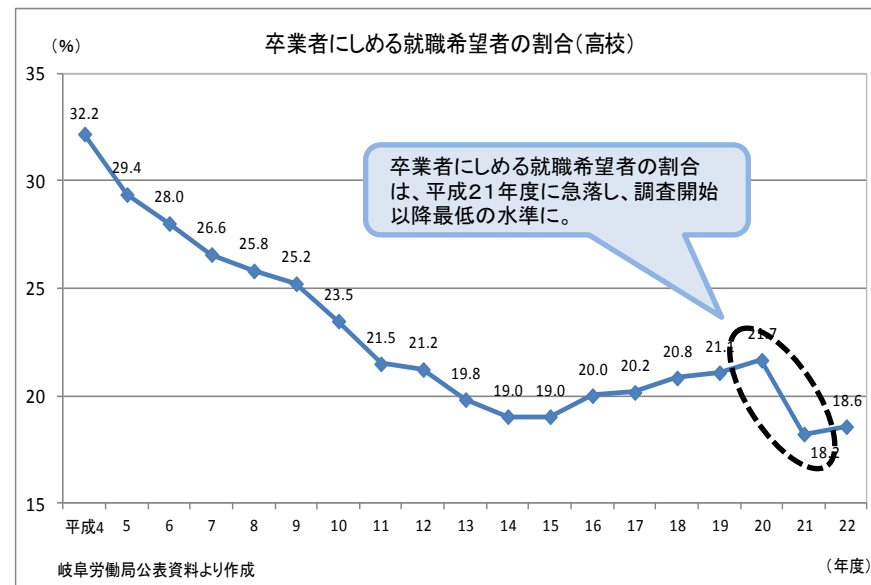
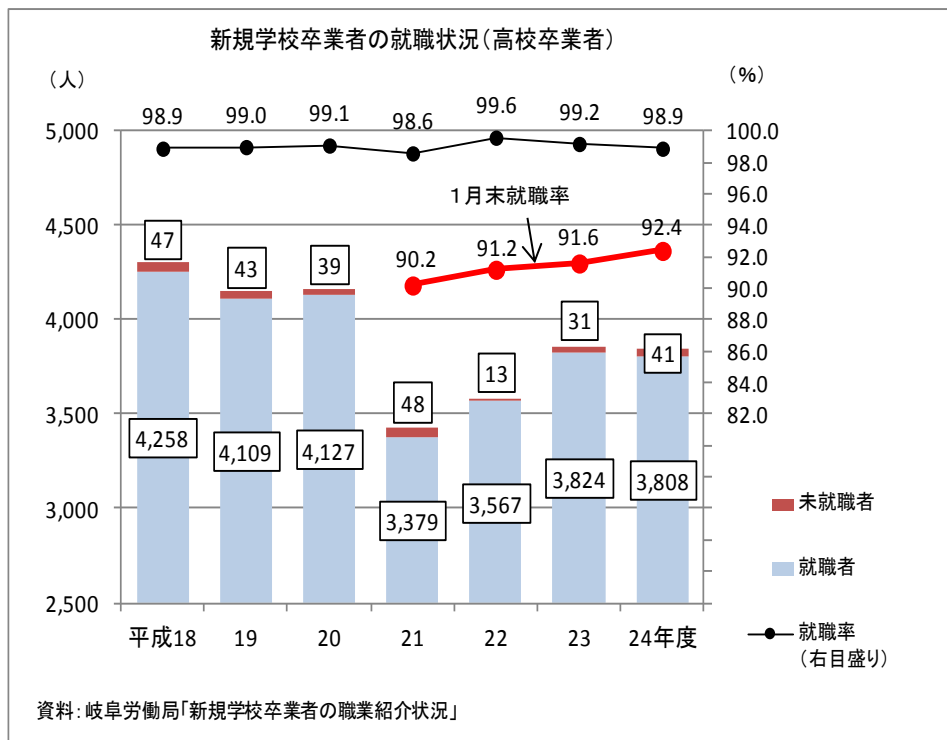
求職者数 731人(うち 外国人295人)

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数、求職者数はともに減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少している。
- ◆雇用調整助成金の件数は横ばい。

雇 用(高校新卒者の就職)

○高校卒業者の就職率はほぼ横ばい。就職希望者割合が上昇し、求職者が増加したことで就職内定者数は増加傾向。



現場の動き(内定の状況)

＜ハローワーク岐阜、美濃加茂、高山＞

◆2013年卒業者の内定状況は横ばい。

＜ハローワーク大垣＞

◆2013年卒業者の内定状況は増加。

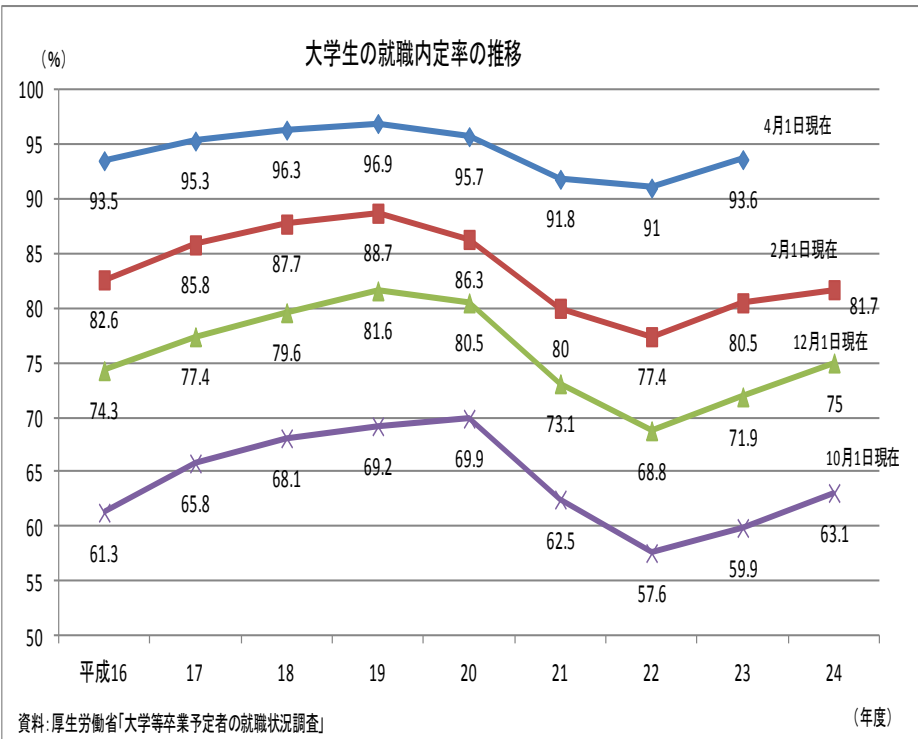
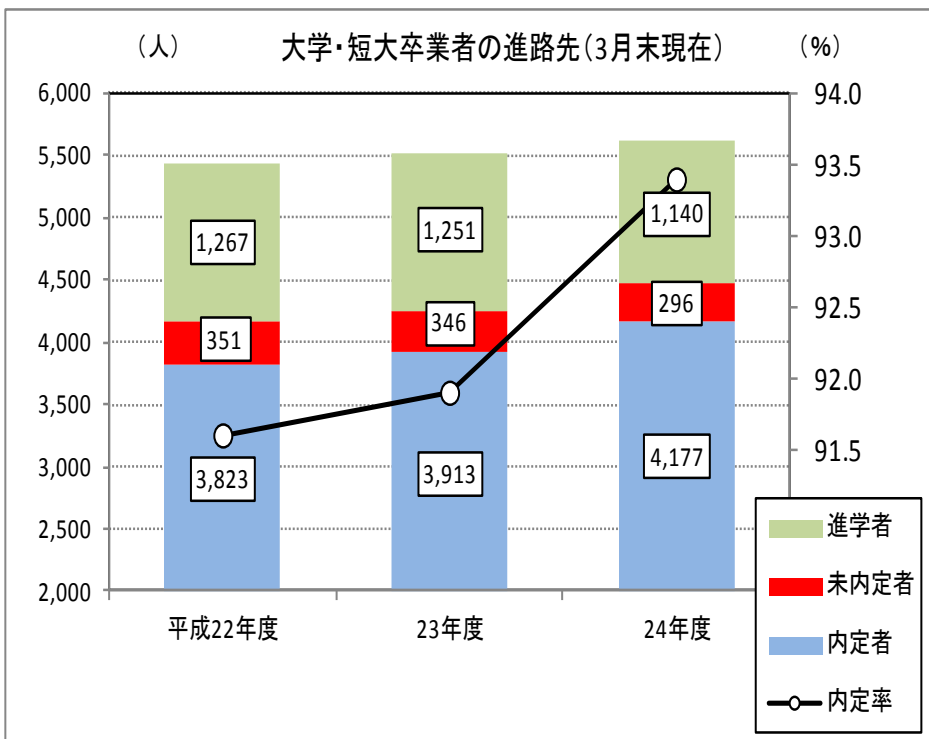
＜ハローワーク多治見、中津川＞

◆2013年卒業者の内定状況は減少している。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

○大学・短大卒業者の内定率については、下げ止まりの動きが見られ、全国・岐阜ともに過去3年間で最も高くなった。

○25年3月の卒業生については、昨年度より内定率が改善。



【岐阜県内の主な大学】

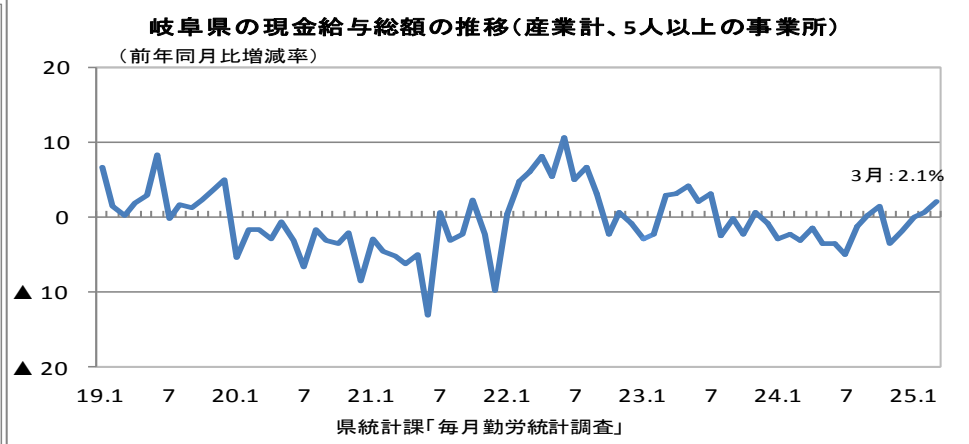
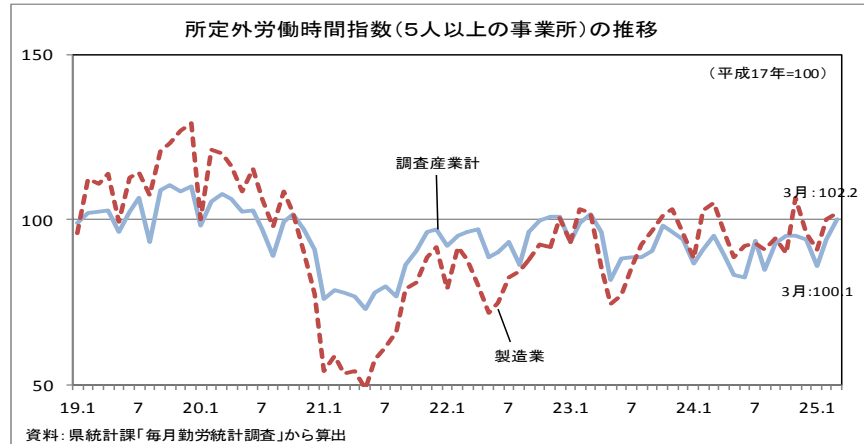
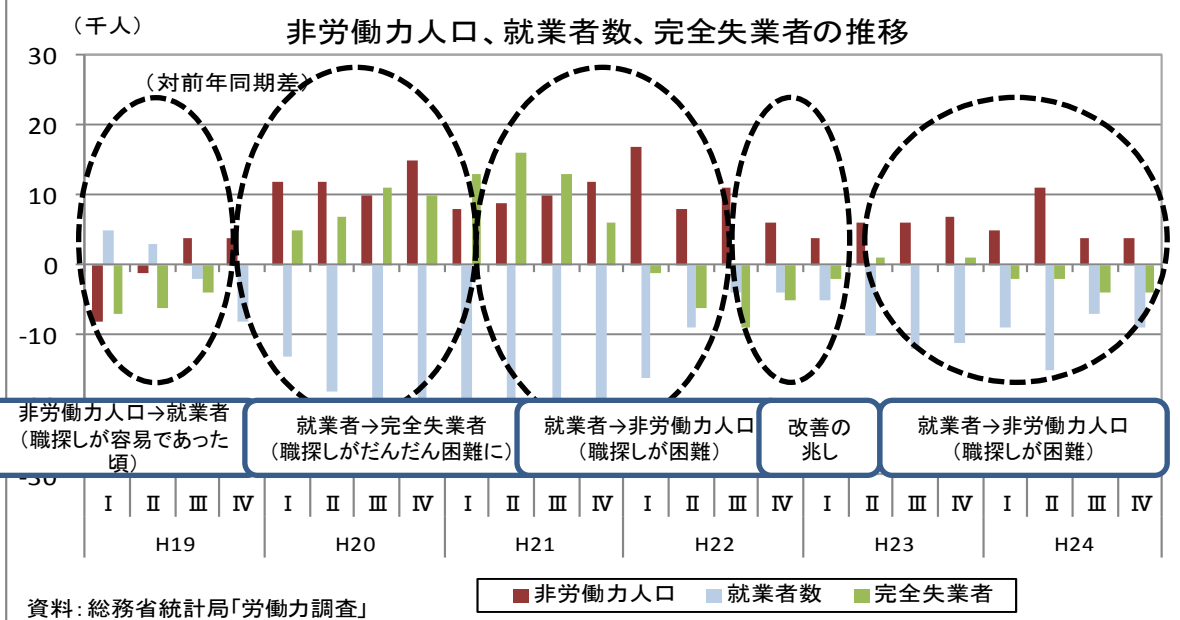
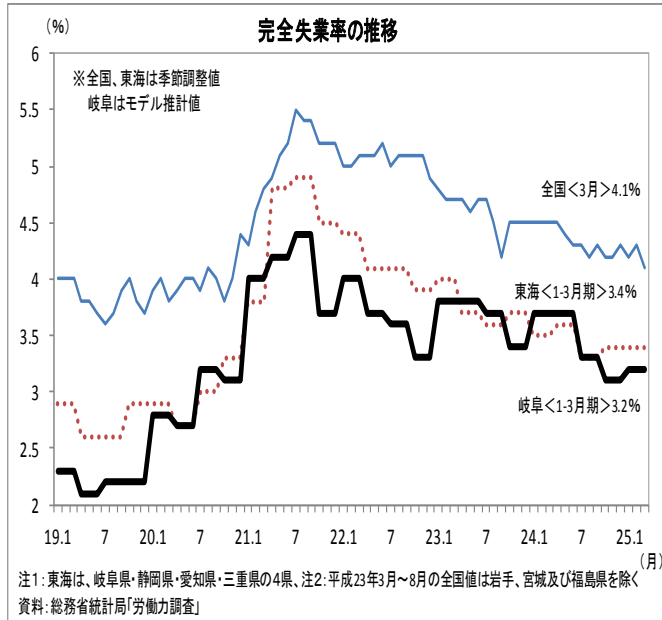
- ・2013年卒の就職決定率は96.2%と昨年度比2%程UPの状況。
- ・2013年卒の就職決定率が確定。92.7%の状況。
- ・2013年卒の就職決定率96%で確定。例年より2%のUPとなる。

【愛知県内の主な大学】

- ・2013年卒の就職決定率は96.4%と確定。昨年度比では約1%のUP。
- ・2013年卒の就職決定率は83%で昨年比2%UPの状況。
- ・2013年卒の就職決定率は四大96.4%（院生93.8%、短大86.4%）。

雇 用(完全失業率)

- 平成25年第 I 四半期の完全失業率は3.2%と0.1ポイントの上昇。
- 平成21年以降職探しが非常に困難な状況が続いたが徐々に緩やかになり、平成22年第Ⅲ四半期以降は改善の兆しも見られた。しかし、直近は再び減少局面に。



<経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業全体では、円安により収益面で改善傾向にあるものの、原材料価格の上昇が生じている。受注や生産が増加するなど、比較的明るい声が多い。
生産用機械においては、引き合いが増加するとともに、海外からの受注が増加している。
- 直近の円安の動きについては、輸出が増加する一方で、原材料価格の上昇により製造コストを押し上げているが、販売価格への転嫁が難しく利益を圧迫している。
- 地場産業は、木工で明るい声も聞こえたが、依然として消費意欲の減退や海外製品との競争、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いている。
- 小売については、天候が良かったことから人出が多く、夏物の衣料品の売上げが好調であった。また、食料品の売上げは引き続き順調に推移している。
- 観光は、総じて前年の水準を概ね確保しており、とりわけ、インバウンドは台湾やタイ、インドネシアなどアジアの幅広い国籍で好調な動きが見られ、宿泊客を底上げ。
- 雇用面では、受注量の増加から、残業や非正規の雇用が発生している。正社員の雇用については専門職や即戦力の人材を求めているが、採用に苦慮している企業が多い。
- 企業の資金繰りは、改善傾向が一服し、ほぼ横ばい状態にあるが、新規借入れ需要は依然少ない。